

基本コードは4和音で(1357ダンゴ4兄弟)

1. II V に始まり II V に終わる

	メジャー7	I
	1 3 5 7	
メジャー(明るい)	ドミナント7	V7
	1 3 5 \flat 7	
	-5th	II m7-5
マイナー(暗い)	1 \flat 3 \flat 5 7	
	そのまま	II m7
	1 \flat 3 5 7	

解決!

マイナー(暗い) II m7-5 \rightarrow V7 \rightarrow I m7

メジャー(明るい) II m7 \rightarrow V7 \rightarrow I Δ 7

Gm7

C7

F

The first system of music consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of two sharps (F# and C#) and a common time signature (C). It contains a sequence of eighth notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The second staff is in treble clef with a key signature of two sharps and a common time signature, containing a sequence of eighth notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The third staff is in bass clef with a key signature of two sharps and a common time signature, containing a sequence of eighth notes: G3, A3, B3, C4, B3, A3, G3. The first measure of each staff is followed by a bar line. The second measure of each staff contains a chord with notes G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The third measure of each staff contains a single note G4. The fourth measure of each staff contains a whole rest.

The second system of music consists of three empty staves, each with a treble clef and a key signature of two sharps (F# and C#). The staves are divided into four measures by vertical bar lines, with a whole rest in each measure.

The third system of music consists of three empty staves, each with a treble clef and a key signature of two sharps (F# and C#). The staves are divided into four measures by vertical bar lines, with a whole rest in each measure.

●EX.1 Gm7—C7—(F)

この進行は、この曲中1コーラス (P.103参照) で6回も出てきます。

一つのフレーズを、どの場所でも使えるわけですが、

逆を言うと、たくさんのフレーズを覚えなければワン・パターンになってしまいます。

CD 1
a

CD 2
b

CD 3
c

CD 4
d

CD 5
e

CD 6
f

CD 7
g

CD 8
h

CD 9
i

Fly Me To The Moon

コード進行の基本である、II m7 - V 7 (トゥー・ファイブ) (P.102参照) が多用されている“Fly Me To The Moon”です。

まず、曲のメロディとコード進行を覚え、次にアドリブを弾くためのフレーズを覚えていきましょう。

曲のメロディ、コード進行、フレーズを早く覚えるには、次の点を心がけて練習しましょう。

- ①一度弾いたら、次は楽譜を見ないで弾いてみます。
- ②分からないところだけ、もう一度見て練習します。
- ③何も考えなくても弾けるようになるまで、①と②を繰り返します。
- ④焦らず、始めはゆっくりのテンポから、だんだん速くして行きます。

【I】メロディ

Words & Music by Bart Howard

©1954 and renewed 1982 by HAMPSHIRE HOUSE PUBLISHING CORP., NEW YORK, N.Y., U.S.A.
Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo
Authorized for sale in Japan only

【II】使用コード

ダイアトニック・コード

I	II	III	IV	V	VI	VII
F	Gm7	Am7	Bb	C7	Dm7	Em7

ドミナント・セブンス・コード

		Am7(b5)			
○ F7		● A7			● D7

(ローマ数字は、度数 (P.102参照) を表し

【III】フレーズ

それでは、アドリブを弾くためのフレーズを覚えていくことにしましょう。

まず、ゆっくりのテンポで練習する事がポイントです。そして、もし奏法的に難しく、どうしても弾けな

いフレーズがあったら、それはチェックしておいて、必ず先に進みましょう。

学習が進み、ギターが向上した時にまた練習してみてください。

練習上の注意

- ① $\text{r} \rightarrow$ の中の記号はスケール名です。PART 2で説明していますのでPART 1を終了してから参照して下さい。
- ②フレーズの中にはパッシング・クロマチック・ノート (コード・トーンやテンションなど、音と音の間を半音階で結ぶ音) や、ディレイド・リゾルブ (一つの音に対して、上と下から半音で遅れて解決させる) を使っているものが沢山あります。(パッシング・クロマチック・ノートとディレイド・リゾルブの詳しい説明は、P.102を参照して下さい。)
- ③II m7 (Gm7) はドリアン・スケール (PART 2で説明します) を使用しますが、その中にあるメジャー・セブンス (M7) の音もジャズでは頻繁に使われます。
- ④フレーズによっては、「先行」が行われているものもあります。これは、フレーズの流れによってそうなるのですが、1拍以内ならば、先行出来るのです。